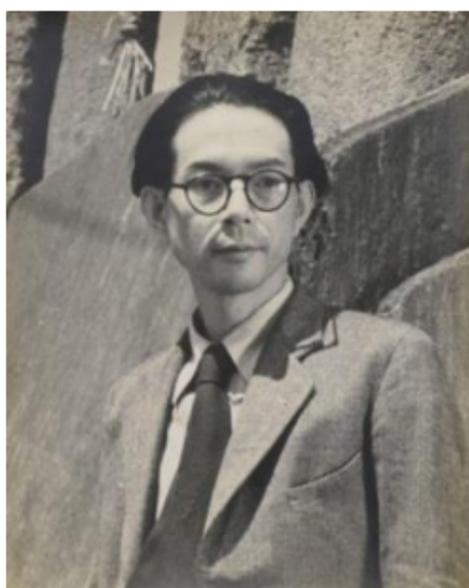


街歩きヒストリア



原民喜画像



被爆柳と案内板

提供：原時彦氏（原民喜の甥、著作権継承者）

⑧ 原民喜ゆかりの被爆柳

広島市中区幟町の生家で被爆した作家・詩人 原民喜（1905～1951）。彼は携えていた手帳に記録を残し、それを基に小説「夏の花」等を執筆。原爆の惨状を世に伝えました。

上柳橋西詰の京橋川緑地帯は、かつて民喜の持ち家（本籍地）があった場所。「玄関に佇めば庭と座敷と川が一目に見渡せた」と作品に描かれており、柳はその庭に生えていました。

移りゆく街の様子を、木は静かに見守ってきたのですね。

（文・片山典子さん）

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力を歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」。公募で集まった制作スタッフが編集します。



案内板には民喜の詩も記されています

HP（検索：広島市中央公民館）にバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください